

平成23年度 関東東海北陸農業試験研究推進会議
畜産草地部会 現地研究会 開催要領

畜産草地部会長 畜産草地研究所畜産研究支援センター長 島田和宏

1 趣 旨

コメの消費減退等によりコメの生産目標数量が減少し、麦・大豆等への転作が奨励されている。しかし、水田を水田として活用することは、農地・水・環境を良好な状態で保全することに役立つ。特に、畑作物への転換が困難な地域では、水田の有効活用をはかる必要がある。そのため、飼料用や米粉用など他用途のイネ栽培が取り組まれている。こうした取り組みの一つとして、コメを原料にしたバイオエタノール生産があり、コメどころ新潟で実用プラントの運用が始まっている。このプラントからは、アルコール生産に利用したコメの残渣が発生し、飼料化も試みられている。こうした取り組みは、地域内で水田と畜産を結ぶ新たな耕畜連携の形態であり、今後の動静が注目される。一方、トウモロコシのバイオエタノール生産残渣である DDGS (Distiller's Dried Grains with Solubles) の輸入も増加しており、こうした穀類蒸留残渣の飼料利用がますます増加すると考えられる。

そこで、新潟県におけるコメバイオエタノール生産の取り組み概要およびこれまでに分かっていたコメ蒸留残渣の飼料特性や利用方法について最新情報を提供してもらい、現状の課題を整理するとともに今後の展望について論議する。

2 日 時

平成23年9月26日(月) 13:00 ~ 27日(火) 12:00

3 場 所

- (1) 1日目 燕三条ワシントンホテル
新潟県燕市井土巻3-65 TEL 0256-66-1111
- (2) 2日目 新潟県農業総合研究所畜産研究センター(新潟県三条市棚鱗178)、
JA全農バイオエタノール製造所(新潟市北区太郎代1024-3)

4 検討事項

テーマ「バイオエタノール生産 ~資源作物生産からDDGSの利活用にわたる現状と課題~」

- (1) 1日目 13:00~17:00

1) 話題提供

- | | |
|-------------------------------------|--------------------|
| ①バイオエタノール生産の概要 | 内海 竜也(全農営農販売企画部) |
| ②DDGSの飼料特性 | 野中 和久(畜産草地研究所) |
| ③米由来バイオエタノール残さの飼料特性 | 小橋 有里(新潟県畜産研究センター) |
| ④イネDDGSの豚への給与 | 大久保剛揮(新潟県畜産研究センター) |
| ⑤イネDDGSの乳牛への給与 | 関 誠(新潟県畜産研究センター) |
| ⑥精白米発酵残さ液(DGS)を活用したリキッド飼料による豚肉生産と課題 | 小嶋 洋朗((有)キープクリーン) |

2) 総合討議および技術的課題等に関する意見交換

(2) 2日目 8:00～12:30

1) 現地検討会

①新潟県農業総合研究所畜産研究センター

見学および成果展示

②JA全農バイオエタノール製造所

製造所の概要及び見学

石山 嗣(製造所長)、巻口 秀彦(工場長)

2) 解散

JR 新潟駅を予定

5 参集範囲

関東東海北陸地域公立試験研究機関・行政普及部局、農林水産省生産局、農林水産技術会議事務局、関東農政局、東海農政局、北陸農政局、民間研究機関、大学、(独)農業・食品産業技術総合研究機構、(独)農業生物資源研究所、(独)家畜改良センター、その他部会長が認める者

6 防疫上の留意点

現地検討会(2日目)に参加される方は、原則として検討会前3日間は家畜に接しないようお願いします。

7 連絡先(事務局)

畜産草地研究所企画管理部業務推進室交流チーム長 米本 正弘

TEL 029-838-8249 FAX 029-838-8606

8 その他

参加・宿泊申込、その他詳細については、別紙の事務連絡をご参照下さい。